

新技術・情報名	キウイフルーツの大果生産のための指果指標
場 所 名	長 崎 県 果 樹 試 験 場
<p>1. 成果の内容</p> <p>1) 技術・情報の内容及び特徴</p> <p>摘果実を行う場合の指標を作成するため、6月中旬から11月上旬まで約10日毎に行っている果実肥大調査の結果を1985年から1990年まで集計し、6月12日、6月22日、7月2日の果径から収穫果の果実重を予測した。</p> <p>(1) 果径から10日毎の果実重を推定すると、果実は7月上旬まで急激に肥大し、その後は緩慢な増加を続けることが明らかになった。収穫時の果実重は最大年と最小年で25 g程度の差が見られた。</p> <p>(2) 予測日の果径と収穫期の果実重の間には正の相関が見られ、時期が遅くなるほど相関係数は高くなった。また、いずれの時期においても横径よりも縦径の方が相関が高かった。</p> <p>(3) 収穫果の各階級に達するのに必要な果径を算出したところ、収穫時で100 g以上になる果実は縦系が6月12日で39mm、6月22日で7月3日で56mmであった。推定値の標準偏差は生育が進むにつれて低下した。</p> <p>2) 技術・情報の適用効果</p> <p>3) 適用範囲</p> <p>4) 成果の利活用・普及指導上の留意点</p> <p>果実肥大はその都年の気温、降水量などの気象条件に影響されるので年によっては摘果指標の値から外れることがある。</p>	

2. 具体的データ

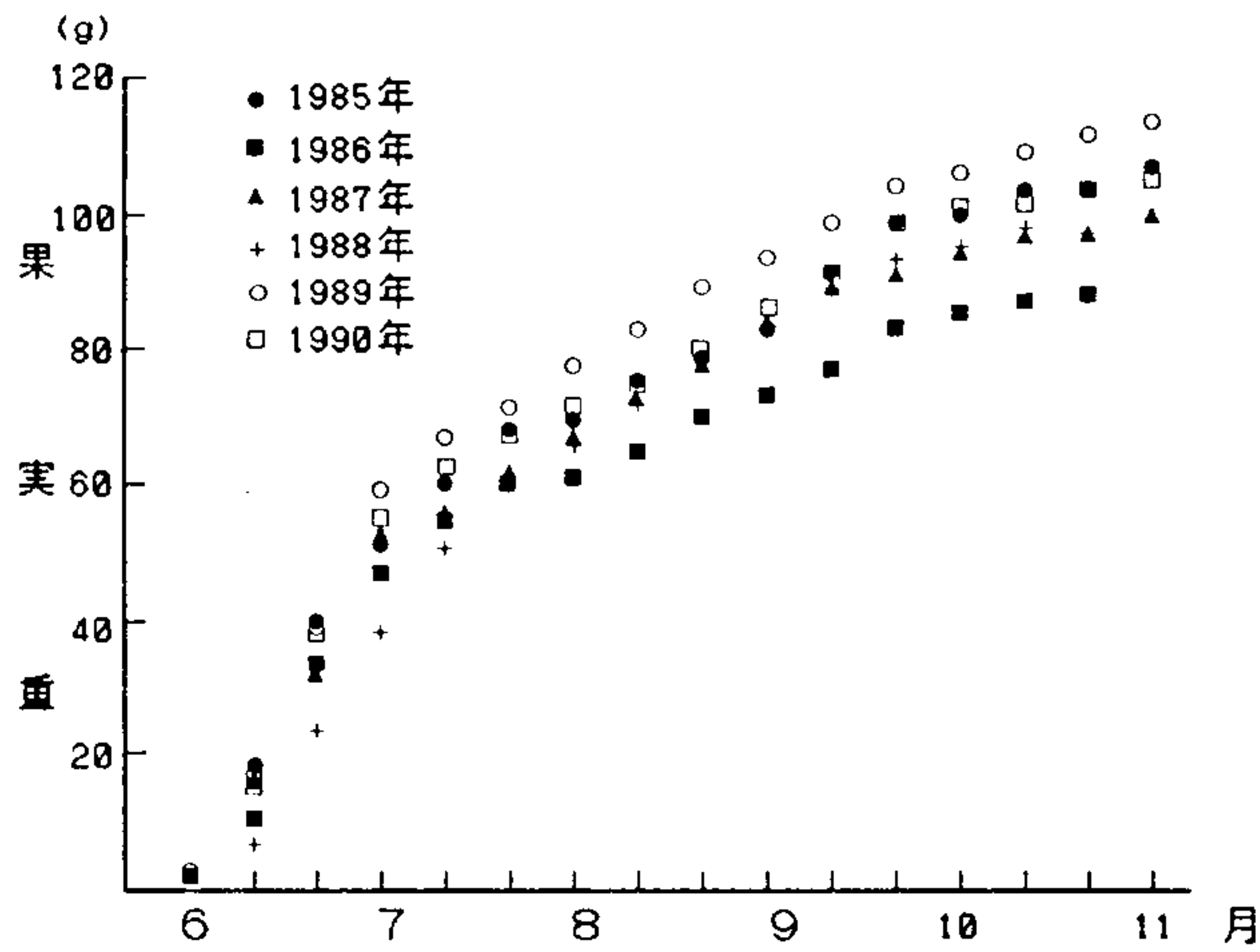


図1 ハイワードの果実重の推移

表1 幼果期の果径と収穫期の果実重の相関

		満開後日数	回 帰 式	相 関 係 数
横 径	6月12日	2 2	$y = 2.31x + 44.5$	0.48
	6月22日	3 2	$y = 2.97x + 0.8$	0.58
	7月3日	4 2	$y = 4.01x - 55.4$	0.69
縦 径	6月12日	2 2	$y = 1.53x + 47.3$	0.49
	6月22日	3 2	$y = 2.65x - 25.1$	0.71
	7月3日	4 2	$y = 2.98x - 58.3$	0.74

表2 収穫時に各階級に達するのに必要な果径

		60~80 g	80~100 g	100~120 g	120~140 g
横 径	6月12日	22.9±2.90	25.0±2.89	26.7±2.63	28.4±2.17
	6月22日	30.9±1.75	33.9±3.03	35.5±2.10	37.4±1.85
	7月3日	36.6±1.66	38.3±1.77	40.5±1.85	42.5±2.03
縦 径	6月12日	31.9±3.41	36.1±4.63	38.8±4.13	40.8±3.34
	6月22日	42.5±2.77	46.7±3.37	50.1±2.67	52.6±2.54
	7月3日	48.6±2.34	52.4±2.96	55.8±2.30	58.4±2.43

3. その他特記事項